

卵巣がん

【集学的治療の実施状況】

○産婦人科

卵巣がんは、病理組織診断を要するため手術を実施します。根治可能な症例では、基本的には根治術（両側付属器摘出術、子宮摘出術、大網切除術）を行っており、また、併せて骨盤内リンパ節郭清術や傍大動脈リンパ節郭清術を施行しております。

根治不可能な症例や、合併症、高齢、全身状態不良などの症例では、可及的腫瘍減量術を施行します。

病理組織および進行期に応じて、術後の化学療法も行います。

○放射線科

画像診断と放射線治療を行います。

○栄養サポートチーム（NST）

医師、栄養士、看護師、薬剤師等が連携し、がんや治療の副作用による食欲低下、体重減少等に対するサポートを行っています。

○緩和ケアチーム

医師、認定看護師、認定薬剤師、管理栄養士、心理士、医療ソーシャルワーカーなどから構成されたチームが中心となり、患者の身体的苦痛や精神的苦痛の緩和に努めます。

《準じているガイドライン》

卵巣がん治療ガイドライン（日本婦人科腫瘍学会）

がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン（日本緩和医療学会）

苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン（日本緩和医療学会）

終末期癌患者に対する輸液療法のガイドライン（日本緩和医療学会）

がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン（日本緩和医療学会）

がん患者の呼吸症状の緩和に関するガイドライン（日本緩和医療学会）

がん性痛に対するインターベンショナル治療ガイドライン（日本ペインクリニック学会）

神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン（日本ペインクリニック学会）

在宅緩和ケアガイドブック（日本緩和医療学会）